

④住まい・地域支援部会

(沖縄県精神障害者地域移行支援連絡協議会)

活動報告・活動計画

1 報告事項

(1) 平成28年度事業報告について

①地域における医療と福祉の連携体制整備事業

- ・八重山圏域については、圏域アドバイザー及び福祉事務所に協力してもらい関係機関と調整する。
- ・活動内容、事業の周知については検討が必要。

②早期退院・地域定着支援院内委員会推進事業

- ・今年度は、4病院(30回分)を補助金交付決定済み
- ・院内委員会への地域援助事業者の参加が少ないことが課題
- ・事業の周知、医療保護入院以外も対象にする等のスキームの見直しが必要

③ピアサポート活用事業

- ・南部圏域については、圏域アドバイザー、コーディネーター及び自立支援連絡会議の住まい・地域支援部会と協力し調整を図る。
- ・各市町村によるピアサポート活用事業の利用について検討する。

(2) 沖縄県精神障害者地域移行等希望調査について

- ・平成25年度に実施した本調査について、現状を把握するため追跡調査を実施
- ・調査結果を取りまとめて関係機関へ情報提供後、本調査にかかる追跡調査は終了する。
- ・精神障害者の地域移行を推進するため、各市町村の長期入院患者数を情報提供することについて、県健康長寿課と調整中。
- ・各市町村において、障害福祉計画の策定、障害福祉サービスのニーズの把握、地域資源の確保等に活用する。

(3) 共同生活援助(グループホーム)に関する調査について

- ・県全体としては、利用定員が給付決定者数を満たしているが、圏域によっては、不足している状況も見られる。
- ・「受け皿がない」という困り感については、グループホーム数だけでなく、ホームと利用者のマッチング等、質的な課題もある。
- ・課題については、住まい・地域生活支援部会にて協議する

2 協議事項

(1) 自立支援協議会住まい・地域支援部会及び精神障害者地域移行支援連絡協議会との組織的な整理について

- ・平成27年度より、精神障害者地域移行支援連絡協議会を自立支援連絡会議住まい・地域生活支援部会として充てていたが、次年度より、以下のとおりに整理する。

①自立支援協議会住まい・地域生活支援部会

社会資源の確保について協議する

②自立支援協議会 地域移行ワーキング

相談支援・人材育成部会に置き、地域相談（地域移行支援及び地域締約支援）を含めた個別支援の推進について協議する

③精神障害者地域移行支援連絡協議会

- ・精神障害者の地域移行支援に係る体制整備（医療・保健・福祉各分野の取組状況等に関する協議、情報交換の場を含む。）のための調整業務を行う。
- ・保健分野との連携強化の観点から、保健分野の委員を置く（県健康長寿課、総合精神保健福祉センター、保健所等）

○平成28年度事業報告（全体）

種別	内容	実施状況等
1 地域移行 ワーキング (予算は、 相談支援 体制整備 事業で計 上)	<p>地域移行・地域定着の推進について、機動的・専門的に協議するためにH27年度に設置。ワーキングで協議した事項を連絡協議会に報告・提案する。</p> <p>(協議事項(案))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域移行・地域定着の推進 ・圏域の住まい・地域支援部会との連携 ・新規採択された基金事業について ・ピアサポート活用事業等の効果的な運用について ・その他必要事項 	<p>①H28. 9. 13 ②H28. 12. 26</p>
2 精神障害 者地域移 行・地域定 着支援事 業	<p>精神障害者地域移行支援連絡協議会等 医療・福祉の関係機関と行政が連携協働し、精神障害者の地域移行支援体制の整備を推進するために必要な意見を聴取する。 H27年度より、ワーキングで協議した事項を本連絡協議会で協議・承認を経て、県自立支援協議会に報告、承認を得ている。</p> <p>研修① 医療機関従事者向け研修 総合精神保健福祉センターが実施。</p> <p>研修② 地域移行支援のための多職種合同研修 本島、宮古、石垣にて各1回ずつ開催。【(一社)作業療法士会へ委託】</p> <p>研修③ ピアサポーター養成研修 本島、宮古、石垣にて各1回ずつ開催。【(一社)作業療法士会へ委託】</p> <p>ピアサポート活用事業 ①ピアサポーターが病院等を訪問し長期入院者へ地域生活の体験を伝え、地域生活のイメージづくりや信頼関係の構築を図る。 ②地域住民等へ精神障害の体験を伝え、退院促進の理解と精神障害者の地域移行の啓発を行う。 【(特非)名護市障がい者関係団体協議会、(社福)残波かりゆし会へ委託】</p>	<p>(障害福祉課) H29. 1. 13</p> <p>(保健所) 各圏域自立支援連絡会議と連携</p> <p>H28. 6. 24実施 精神科病院、保健所職員等対象</p> <p>H28. 12. 9 (本島) H28. 12. 10 (石垣) H29. 1. 22 (宮古)</p> <p>H29. 1. 23 (宮古) H29. 2. 13 (本島) H29. 2. 14 (石垣)</p> <p>H28. 6月～ H29. 3月頃まで</p>
3 精神障害 者地域移 行・地域定 着促進基 金事業	<p>地域における医療と福祉の連携体制整備事業(コーディネーター事業) 地域での医療と福祉の連携体制を整備するためのコーディネーターを配置し、精神科医療機関と障害福祉サービス提供事業所の接着を図ることを目的とした事業</p> <p>(活動内容) ア. 県自立支援協議会(地域移行ワーキング)及び各圏域自立支援連絡会議に関すること イ. 地域相談支援(市町村)と地域移行・地域定着支援の連携に関すること ウ. その他県の地域移行支援体制整備に関すること ※委託による実施については、1件あたり20,550円を支払う。 【委託:(特非)名護市障がい者関係団体協議会、(株)アソシア】 【派遣:県立精和病院、県立宮古病院】</p> <p>精神障害者入院患者に対する地域定着試行事業 精神障害入院患者が退院し地域で生活を行うため、実際に障害福祉サービス等を短期的に利用し地域での生活を体験してもらう。</p> <p>早期退院・地域定着支援院内委員会推進事業 医療保護入院退院支援委員会(院内委員会)に地域援助事業者が出席し、それに対し報酬を支払った病院に対して補助金を交付する事業 (1回あたり4,200円を限度)</p> <p>長期入院精神障害者地域移行人材育成研修 本島にてファシリテーション研修、本研修実施。フォローアップ研修は、本島、宮古、石垣にて開催予定。【(一社)精神保健福祉士協会へ委託】</p>	<p>H28. 4月に本島3圏域に配置 H28. 9月に宮古圏域に配置</p> <p>調整中</p> <p>○申請数 5医療機関、110件</p> <p>○ファシリテーション研修 H28. 7. 10 ○本研修 H28. 7. 28～7. 29 ○フォローアップ研修 H29. 2. 3 (本島) H29. 2. 24 (宮古) H29. 3. 3 (石垣)</p>

○平成29年度 県の取組(案)

単位:千円

種別	内容	実施予定時期	H28 当初予算	H29 予算(案)
1	<p>地域移行ワーキング (予算は、相談支援体制整備事業で計上)</p> <p>地域移行・地域定着の推進について、機動的・専門的に協議するためにH27年度に設置。ワーキングで協議した事項を連絡協議会に報告・提案する。</p> <p>(協議事項(案))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域移行・地域定着の推進 ・圏域の住まい・地域支援部会との連携 ・新規採択された基金事業について ・ピアサポート活用事業等の効果的な運用について ・その他必要事項 	<p>年2回開催予定</p> <p>①H29.5月頃</p> <p>②H29.11月頃</p>	133	133
2	<p>精神障害者地域移行・地域定着支援事業</p> <p>精神障害者地域移行支援連絡協議会等 医療・福祉の関係機関と行政が連携協働し、精神障害者の地域移行支援体制の整備を推進するために必要な意見を聴取する。 H27年度より、ワーキングで協議した事項を本連絡協議会で協議・承認を経て、県自立支援協議会に報告、承認を得ている。</p>	<p>(障害福祉課) 1～2回予定</p> <p>(保健所) 各圏域自立支援連絡会議と連携</p>	648	697
	<p>研修① 医療機関従事者向け研修 (総合精神保健福祉センター)</p>	H29上半期	206	196
	<p>研修② 地域移行支援のための多職種合同研修 (本島、宮古、石垣にて各1回ずつ開催) (委託)</p>	H29下半期	918	904
	<p>研修③ ピアサポーター養成研修 (本島、宮古、石垣にて各1回ずつ開催) (委託)</p>	H29下半期	617	604
	<p>ピアサポート活用事業</p> <p>①ピアサポーターが病院等を訪問し長期入院者へ地域生活の体験を伝え、地域生活のイメージづくりや信頼関係の構築を図る。 ②地域住民等へ精神障害の体験を伝え、退院促進の理解と精神障害者の地域移行の啓発を行う。</p>	H29.5月～ H30.3月頃まで	1,000	900
	小計			3,389
3	<p>地域における医療と福祉の連携体制整備事業(コーディネーター事業) 地域での医療と福祉の連携体制を整備するためのコーディネーターを配置し、精神科医療機関と障害福祉サービス提供事業所の接着を図ることを目的とした事業</p> <p>(活動内容)</p> <p>ア. 県自立支援協議会(地域移行ワーキング)及び各圏域自立支援連絡会議に関すること イ. 地域相談支援(市町村)と地域移行・地域定着支援の連携に関すること ウ. その他県の地域移行支援体制整備に関すること ※委託による実施については、1件あたり20,550円を支払う。</p>	適宜	3,080	5,789
	<p>精神障害者入院患者に対する地域定着試行事業 精神障害入院患者が退院し地域で生活を行うため、実際に障害福祉サービス等を短期的に利用し地域での生活を体験してもらう。</p>	調整中	3,678	2,918
	<p>早期退院・地域定着支援院内委員会推進事業 医療保護入院退院支援委員会(院内委員会)に地域援助事業者が出席し、それに対し報酬を支払った病院に対して補助金を交付する事業 (1回あたり4,200円を限度)</p>	適宜	1,260	718
	<p>長期入院精神障害者地域移行人材育成研修 (各圏域で実施) (委託)</p>	適宜	2,352	945
	小計			10,370
合計			13,892	13,804

※H29予算額は、財政当局と調整中

平成28年度 沖縄県精神障害者地域移行等希望調査に関する追跡調査結果

情報提供した市町村	回答数
31	31

質問1 (1)H28年12月現在の状況について

		北部	中部	南部	宮古	八重山	合計
H25情報提供		16	79	101	6	8	210
H28回答数		16	79	101	6	8	210
入院中	継続	4	42	56	0	2	104
	転院	0	0	6	0	2	8
	合計	4	42	62	0	4	112
退院		4	33	29	5	3	74
死亡		2	4	8	0	1	15
状況不明		6	0	2	1	0	9

(2)退院先について

	北部	中部	南部	宮古	八重山	合計
自宅・単身	3	9	7	2	1	22
グループホーム等	1	14	14	3	1	33
その他	0	8	4	0	1	13
(その他内容) シェアハウス、共同住宅、有料老人ホーム 等						

質問2 サービスの利用について

	北部	中部	南部	宮古	八重山	合計
地域移行	0	2	1	3	0	6
地域定着	0	0	1	1	0	2
その他	2	24	18	3	0	47
(その他内容) 共同生活援助、宿泊型自律訓練、就労継続支援、介護保険サービス 等						

ご協力ありがとうございました。

沖縄県精神障害者地域移行等希望調査に関する追跡調査結果(市町村別)

	H25調査結果		H27調査結果				H28結果			
	(1)退院可能	(2)情報提供可	(3)H25結果把握	(4)情報提供	(5)地域移行	(6)地域定着	入院中	退院	死亡	状況不明
1 那覇市	66	49	○	66	0	0	31	13	3	2
2 宜野湾市	17	11	○	10	0	0	6	5	0	0
3 石垣市	7	7	×				3	3	1	0
4 浦添市	16	8	×				4	4	0	0
5 名護市	7	7	○	7	0	0	0	1	0	6
6 糸満市	16	11	○	11	0	0	9	1	1	0
7 沖縄市	23	17	○	17	0	0	10	6	1	0
8 豊見城市	9	7	×				2	4	1	0
9 うるま市	33	24	○	24	1	0	9	13	2	0
10 宮古島市	6	6	○	6	1	1	0	5	0	1
11 南城市	3	2	○	2	0	0	1	1	0	0
12 国頭村	2	1	○	1	0	0	0	1	0	0
13 大宜味村	1	1	×				1	0	0	0
14 東村	0	0	×							
15 今帰仁村	2	0	×							
16 本部町	6	5	○	4	0	0	2	1	2	0
17 恩納村	5	4	○	4	0	0	2	2	0	0
18 宜野座村	2	1	×				1	0	0	0
19 金武町	0	0	○	0	0	0				
20 伊江村	1	1	×				1	0	0	0
21 読谷村	3	2	○	2	0	0	2	0	0	0
22 嘉手納町	5	4	○	4	0	0	2	1	1	0
23 北谷町	8	7	○	7	1	0	3	4	0	0
24 北中城	5	4	○	4	1	1	3	1	0	0
25 中城村	9	5	×				4	1	0	0
26 西原町	6	3	○	3	0	0	1	2	0	0
27 与那原町	4	3	○	4	0	0	1	0	2	0
28 南風原町	9	7	×				6	1	0	0
29 渡嘉敷村	1	1	○	1	0	0	1	0	0	0
30 座間味村	1	1	○	0	0	0	1	0	0	0
31 粟国村	0	0	×							
32 渡名喜村	0	0	×							
33 南大東村	0	0	○	1	0	0				
34 北大東村	0	0	×							
35 伊平屋村	0	0	○	1	1	1				
36 伊是名村	1	1	×				0	1	0	0
37 久米島町	5	3	×				1	1	1	0
38 八重瀬町	8	6	○	7	0	0	4	2	0	0
39 多良間村	0	0	○	0	0	0				
40 竹富町	1	1	○	1	0	0	1	0	0	0
41 与那国町	0	0	×							
県外	3	3								
合計	291	213	把握:25	187	5	3	112	74	15	9

(1)退院可能:精神病床に1年以上入院している患者(認知症も含む。)のうち、①自傷他害の恐れがある者、②精神症状が著明に現れている者、③開放処遇による治療が困難等入院による医学的管理が必要な者に該当せず、地域の支援(サービス)等を活用すれば退院可能と主治医が見込む者

(2)情報提供可:調査対象者のうち、市町村への情報提供可能と回答した者

(4)情報提供:H27年度の追跡調査にて、市町村が情報提供を受けたと回答した数

(5)、(6)H27年10月現在で回答

共同生活援助(グループホーム)に関する調査結果

返送数	有効回答数	無効回答数	合計
40	40	0	40

質問1 共同生活援助の給付決定状況について

① 平成28年9月末現在の給付決定数 1224 件

質問2 共同生活援助の利用状況について

① 平成28年9月末現在の利用人数 1152 人

② 給付及び利用している方の障害の状況

	給付	利用	ホーム数	利用定員
知的障害	598	579	205	972
精神障害	430	395	161	849
身体障害	75	72	60	367
全体(重複なし)	1224	1152	256	1351

※重複あり

※ホーム数、利用定員は、H28.9.1現在

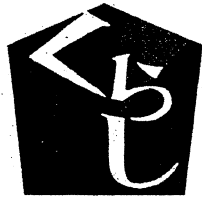
お忙しいところ、御協力ありがとうございました。

共同生活援助(グループホーム)に関する調査結果及びグループホーム数(市町村別)

給付決定者数及び利用者数(H28.9月末現在)

グループホーム数(H28.9.1現在)

市町村	給付決定		対象 ※重複あり		利用者数	対象 ※重複あり		ホーム数	対象 ※重複あり		利用定員	対象 ※重複あり	
	身体	知的	身体	知的		精神	身体		知的	精神		身体	知的
1 北部	72	56	5	55	71	5	55	27	5	25	159	14	123
2 名護市	14	9	4	6	13	2	6	0	0	0	0	0	0
3 国頭村	17	17	0	17	2	0	17	4	0	4	20	0	20
4 大宜味村	15	11	1	11	15	1	11	4	0	0	0	0	0
5 東村			0	0		0	0	2	2	2	10	10	10
6 今帰仁村	24	17	2	17	24	2	17	13	0	13	59	0	59
7 本部町	12	9	3	9	12	3	9	1	0	0	0	0	0
8 伊江村	1	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0
9 伊平屋村	6	2	1	2	6	1	2	3	0	0	0	0	0
10 伊是名村	161	122	16	118	159	14	118	33	14	44	248	24	212
11 北部合計	46	29	3	29	44	3	29	13	9	9	35	11	35
12 中部	107	72	2	70	104	2	70	32	4	17	99	18	69
13 宜野湾市	121	60	10	57	113	8	57	57	24	16	166	13	95
14 うるま市	15	10	1	10	15	1	10	4	3	3	20	0	20
15 恩納村	5	3	0	3	5	0	3	2	0	0	0	0	0
16 宜野座村	30	14	4	13	28	4	13	14	8	7	23	0	18
17 金武町	8	0	0	0	0	0	0	7	0	7	36	0	36
18 読谷村	11	8	1	8	11	0	8	1	1	1	4	0	4
19 嘉手納町	13	10	4	9	12	4	9	3	1	1	7	0	7
20 北谷町	13	8	0	8	12	0	8	5	0	0	0	0	0
21 北中城	15	6	2	6	15	2	6	8	5	5	15	9	15
22 中城村	384	218	26	213	359	24	213	139	82	66	405	51	299
23 中部合計	262	94	36	89	251	36	89	126	46	42	215	80	197
24 南部	49	49	6	48	48	6	48	28	11	7	66	21	35
25 那覇市	57	28	6	26	51	6	26	23	16	3	84	0	14
26 浦添市	46	12	7	11	37	7	11	22	10	9	56	40	49
27 糸満市	39	24	4	24	38	4	24	12	6	6	33	0	33
28 豊見城市	37	18	3	18	33	3	18	13	4	4	26	21	26
29 南城市	14	13	2	13	14	2	13	0	1	1	4	0	4
30 西原町	0	0	0	0	0	0	0	8	1	6	68	7	38
31 与那原町	1	0	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0
32 南風原町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
33 渡嘉敷村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34 座間味村	2	2	0	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0
35 粟国村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
36 渡名喜村	4	4	0	4	4	0	4	0	0	0	0	0	0
37 南大東村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
38 北大東村	11	8	0	8	11	0	8	3	0	0	0	0	0
39 久米島町	26	12	4	11	24	4	11	10	8	7	41	34	7
40 八重瀬町	548	264	72	254	514	69	254	238	110	36	593	203	403
41 南部合計	80	47	5	42	71	4	42	32	10	8	67	67	20
42 宮古島市	2	1	1	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0
43 多良間村	82	48	6	43	73	5	43	32	10	3	67	67	20
44 宮古合計	36	25	5	24	34	5	24	8	8	8	38	22	38
45 八重山	5	5	0	5	5	0	5	1	0	0	0	0	0
46 石垣市	8	8	0	8	8	0	8	0	0	0	0	0	0
47 竹富町	5	5	0	5	5	0	5	1	0	0	0	0	0
48 与那国町	8	8	0	8	8	0	8	0	0	0	0	0	0
49 八重山合計	49	38	5	37	47	5	37	9	8	8	38	22	38
50 県合計	1224	692	125	665	1152	117	665	451	256	205	1351	387	972
51 26													
52 849													



kurashi@okinawatimes.co.jp

発達障がい者の就労支援

埼玉県 相談から職場定着まで

センターでの就労支援の流れ

- ① 就労相談
本人や家族からの相談に応じる
- ② 職業能力評価
検査を通して、職業の適性を把握
- ③ 就労訓練
疑似オフィスで業務を体験
- ④ 就職活動支援
スタッフが面接に同行
- ⑤ 職場定着支援
就職後も定期的に職場訪問



センター川口

就労訓練で、上司のスタッフ(左)の手本を参考に新商品の手付け袋を作製する利用者。埼玉県川口市のセンター川口

埼玉県内に4カ所あるセンターの一つ、同県川口市の「ジョブセンター川口」。オフィスを再現した部屋で、20人ほどの男女が就労訓練を受けていた。新聞紙で手付け袋を作製する男性に、上司役のスタッフが「これ、同じように」と実際に作って手本を見せている。センター長の加藤正美さんが「前と

同様にやっておいて、と言っただけでは戸惑うが、具体的に指示を出せば十分に力を発揮できる」と説明してくれた。発達障害には、自閉症や注意欠陥多動性障害(ADHD)などの類型があり、コミュニケーションが苦手な人が多い。就職でつまづくと、大人になつてから障害に気付くケースもある。

センターは、県が2011年度から始めた「発達障害者支援プロジェクト」の一環。14年に川口市と草加市で、15、16年に川口市と熊谷市でも開設した。ハローワークや福祉事業所に分散していた各支援を集約し、行政の支援が行き届かなかった就労訓練で、上司のスタッフ(左)の手本を参考に新商品の手付け袋を作製する利用者。埼玉県川口市のセンター川口

「発達障害者」の人も利用可能とした。県によると、4センターで16年12月末までに相談を受けたのは県内の1987人で、7割は20、30代。うち200人が就職し、就職は27人という。県の担当者は「就職面接にセンターのスタッフが同行して障害への理解を促し、就職後も企業への橋渡し役を務めるなど、継続的な支援が功を奏している」と分析する。

面接もスタッフが同行

発達障害者やその疑いのある人を対象にした就労支援センターを埼玉県が開設し、相談から職場定着まで一貫したサポートをしている。障害の特性に応じた訓練をし、就職面接にはスタッフが同行する。厚生労働省によると、発達障害に特化した公的な就労支援機関は珍しく、全国に先駆けた取り組みだ。

面接もスタッフが同行

「発達障害者」の人も利用可能とした。

発達障害者やその疑いのある人を対象にした就労支援センターを埼玉県が開設し、相談から職場定着まで一貫したサポートをしている。障害の特性に応じた訓練をし、就職面接にはスタッフが同行する。厚生労働省によると、発達障害に特化した公的な就労支援機関は珍しく、全国に先駆けた取り組みだ。

連合社の方でスターセンターで金融商品の利用者からの問い合わせに対応する業務を担当した。商品開発を担当する本社員とは電話やメール中心の顔が見えない関係のため、連携は不可欠。しかし、敬語を使わない、メールの返信が1カ月以上ない、新商品の詳細な説明

外資系金



「人件費

「東京本社から仕事を丸投げされ、安い給料でいいように使われている」と感じていたと語る新商品課長さん

「発達障害者」の人も利用可能とした。県によると、4センターで16年12月末までに相談を受けたのは県内の1987人で、7割は20、30代。うち200人が就職し、就職は27人という。県の担当者は「就職面接にセンターのスタッフが同行して障害への理解を促し、就職後も企業への橋渡し役を務めるなど、継続的な支援が功を奏している」と分析する。

表現を工夫して伝えて



レビの取材を受けたことをうらやましがらクラスメートたちに、火星人にとって密着されることが、いかに苦しいことであるか伝えきれていないということが分かってきました。とはいえ、私も当事者ではないので、その苦しい感じがピンと来ません。そこで、代わりに妻ウッシーナが「砂袋10kgを持って密着されるくらい(苦しい)」と答えてくれたので、ウッシーナの大変さをリアルに知ることができました。発達障がいになる人の生きづらさを言葉や文字だけでとらえると「そんなことは誰でもあること」だと誤解されることが多くて、生きづらさや苦しみのボリュームがなかなか伝わりません。そのため表現を日々、工夫して周囲の人たちに、目に見えるような言い方や伝え方をしなくてはならないと思います。

6人のうち5人が「発達障がい」の家族の日常を描いています。

毎週月曜日掲載



平岡慎之
言語聴覚士 前田智子

生きづらさや困り感は本人の語りを傾聴することが大事。信頼関係と理解が深まりますね。

くらし面へのご意見、取り上げてほしいことをお寄せください。投稿エッセー「くさくさ」、健康長寿をテーマにした「がんばり〜川柳」も募集しています。くさくさは400字(欄外に題名)、川柳は5・7・5。いずれも住所・氏名・年齢・電話番号を明記してください。
●電話：098(860)3553
●ファクス：098(860)3484
●メール：kurashi@okinawatimes.co.jp
●〒900-8678 沖縄タイムス学芸部くらし班

くさくさ
数年前、夕組に応募した。たつた。実はプレゼントが、こちらかついでに、一に電話を入れ、結果、私が残ったりするいい弁当箱にそうだ！

2017 OKINAWA ECO SPIRIT RIDE & WALK in NANJO

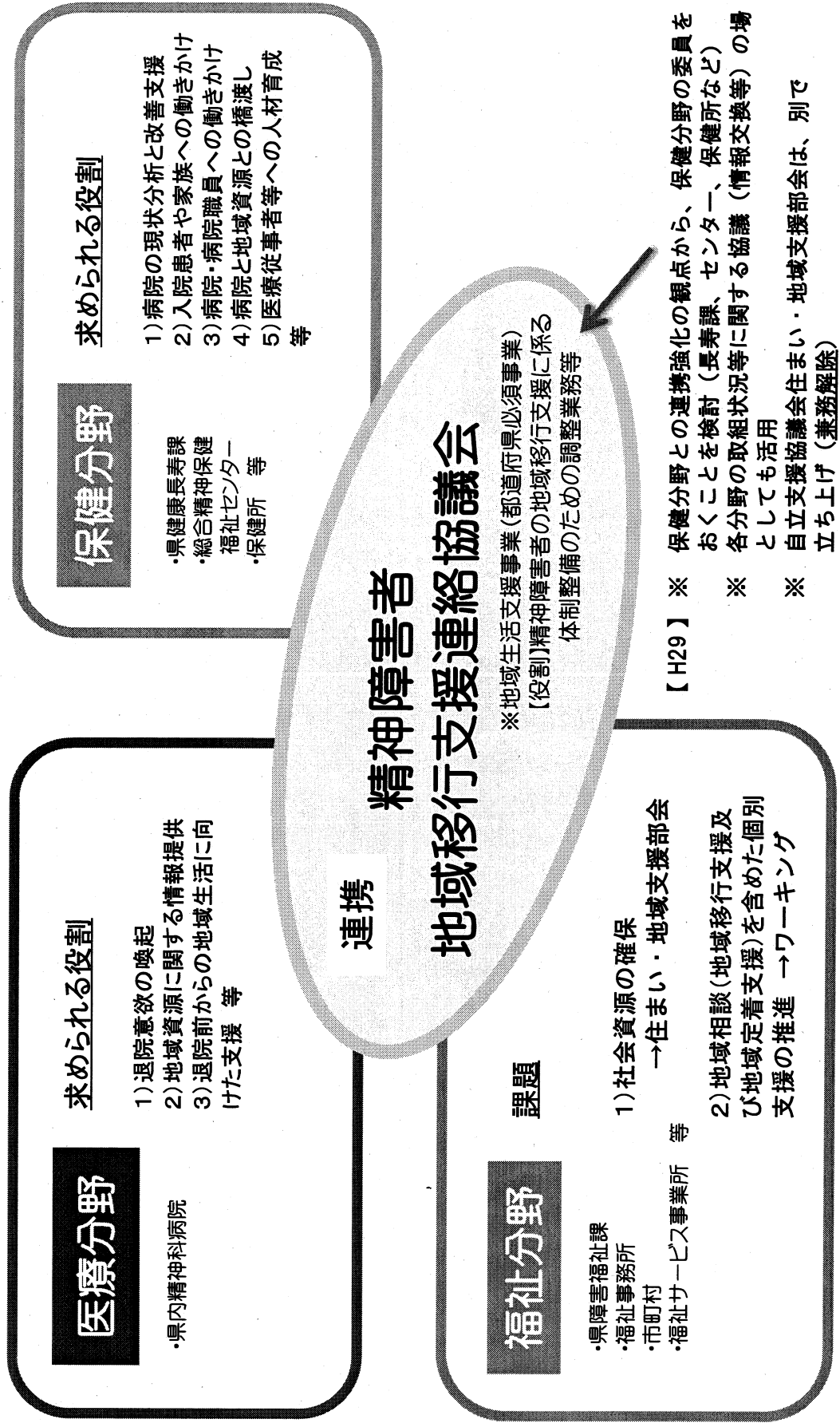
おきなわ ECO スピリット ライド & ウォーク in 南城市

琉球の聖地にパワーをもらいファミリー・仲間とチャレンジ!

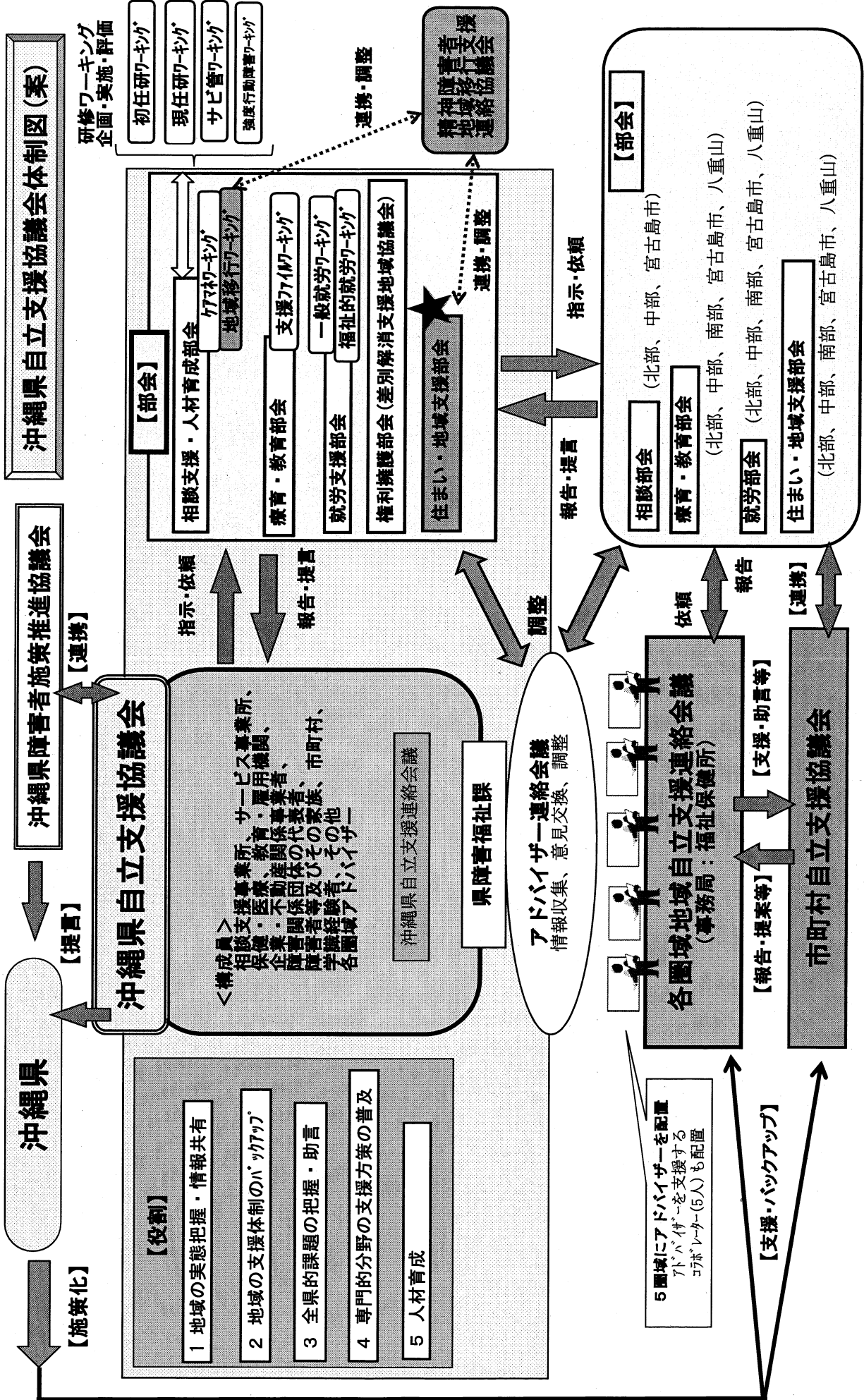
参加者募集!! 2017 2.26日 募集期間延長 2/8(水)まで

スタート・ゴール ユインチホテル 南城市

○ 精神障害者・地域移行支援に係る役割分担のイメージ



H29以降(案)



*H29スケジュール(案)

		H29.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H30.1月	2月	3月
自立支援協議会												県自立支援協議会	
	住まい・地域支援部会		★第1回部会開催								★第2回部会開催		
	ワーキング (相談支援・人材育成部会)		★第1回WG開催							★第2回WG開催			
沖縄県精神障害者地域移行支援連絡協議会							★第1回協議会開催						★第2回協議会開催 (必要に応じて開催)
平成29年度 ★部会立ち上げ													

平成29年度 沖縄県精神障害者地域移行支援連絡協議会委員名簿（案）

	分野	氏名	所属・職名	備考
1	学識経験者	知名 孝	沖縄国際大学 人間福祉学科 准教授	
2	医療関係者	小渡 敬	沖縄県精神科病院協会 会長 (平和病院)	
3	"	中下 綾子	沖縄県精神科病院協会 相談室長会 会長 (天久台病院)	
4	"	伊室 伸哉	沖縄県外来精神科医会 会長 (パークレーいむろ心のクリニック)	
5	"	城間 清一	日本精神科看護協会沖縄県支部 支部長 (嬉野が丘サマリヤ人病院)	
6	"	福治 康秀	独立行政法人国立病院機構琉球病院 院長	
7	"	屋良 一夫	沖縄県立精和病院 精神科部長	
8	福祉関係者	高嶺 稚子	那覇市障がい福祉課 主査	
9	"	伊禮 満	嘉手納町福祉課 係長	
10	"	平田 嗣尚	地域活動支援センターミッドリンク 所長 (当事者関係)	
11	"	兼浜 克弥	一般社団法人沖縄県精神保健福祉士協会 (那覇市地域生活支援センターなんくる 施設長)	
12	"	安村 勤	特定非営利活動法人おきなわ障がい者相談支援ネットワーク 副理事長 (地域生活支援センターウェブ所長)	
13	保健関係者			(健康長寿課、保健所、総合精神保健福祉センターから、2～3名を想定)
14	"			
15	"			

沖縄県障害者自立支援協議会 住まい・地域支援部会員（案）

	分野	氏名	所属・職名	備考
1	医療	中下 綾子	天久台病院 相談室長	
2	福祉	安村 勤	(特)名護市障害者関係団体協議会 地域生活支援センター ウェーブ 施設長	北部圏域アドバイザー 地域移行支援連絡協議会
3	"	津波古 悟	(特)なちゅら福祉ネット 広域相談支援センターfit センター長	中部圏域アドバイザー
4	"	溝口 哲哉	(福)若竹福祉会 地域生活支援センターEnjoy センター長	南部圏域アドバイザー
5	"	津嘉山 航	(株)ゆにばいしがき 管理者	八重山圏域アドバイザー
6	"	野原 勝	宮古福祉事務所 地域福祉班 班長	
7	"	上間 勝之	北部障がい者生活支援センターハーモニー 相談支援専門員	北部圏域自立支援連絡会議 住まい・暮らし部会 部会長
8	"	島 和也	沖縄市障がい者基幹相談支援センター 所長	中部圏域自立支援連絡会議 部会長
9	"	兼浜 克弥	那覇市地域生活支援センターなんくる 施設長	南部圏域自立支援連絡会議 部会長
10	"	川崎 弘子	合同会社ほっとケア相談支援事業所やふあ てい 管理者兼相談支援専門員	八重山圏域自立支援連絡会議 部会長
11	保健	比嘉 丞	保健医療部 健康長寿課 精神保健班 班長	
12	市町村	宮川 晴美	那覇市障がい福祉課基幹相談支援グループ グループ長	
13	市町村	岸本 美智子	国頭村福祉課 課長	
14	その他	下地 雅美	(株)レキオス事業本部 本部長	
15	"	嵩山 真紀	土木建築部 住宅課 企画班 班長	
16	"	平良 仁	沖縄県住宅供給公社 住宅部 事業企画課 課長	沖縄県居住支援協議会事務局

※医療分野（MSW、療養病棟のある医療機関等）、福祉分野（施設入所支援等）、刑務所等については、部会を進めるなかで、必要に応じて部会員を追加する。

沖縄県自立支援協議会 地域移行ワーキング構成員 (案)

	分野	氏名	所属・職名	備考
1	アドバイザー	安村 勤	(特)名護市障害者関係団体協議会 地域生活支援センター ウェーブ 施設長	精神障害者地域移行支援連絡協議会 県自立支援協議会 (住まい・地域支援部 会)
2	"	津波古 悟	(特)なちゅら福祉ネット 広域相談支援センターfit センター長	県自立支援協議会 (住まい・地域支援部 会)
3	"	溝口 哲哉	(福)若竹福祉会 地域生活支援センターEnjoy センター長	県自立支援協議会 (住まい・地域支援部 会)
4	"	津嘉山 航	(株)ゆにばいしがき 管理者	県自立支援協議会 (住まい・地域支援部 会)
5	コーディネーター	新垣 優一郎	(特)名護市障害者関係団体協議会 地域生活支援センター ウェーブ 相談支援専門員/精神保健福祉士	
6	"	伊井 統章	株式会社 アソシア ゼネラルマネージャー 精神保健福祉士	
7	"	野中 美美	県立精和病院 地域連携室・医療福祉相談室 精神保健福祉士	
8	"	古藤 由梨佳	県立宮古病院 地域連携室 精神保健福祉士	
9	医療	福治 康秀	独立行政法人国立病院機構琉球病院 院長	
10	"	西銘 隆	(医)社団輔仁会 相談支援事業所 オアシス	沖縄県精神科病院協会 相談室 長会からの推薦
11	福祉	(各圏域からの推薦等を勘案し選任)		
12	"			
13	"			
14	"			
15	"			